

# 平成26年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成27年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成26年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成27年3月

土木部長 幸道 隆治

## I 総括

### 1 道路交通ネットワークの整備

- 舞鶴若狭自動車道の平成26年夏までの全線開通や、スマートインターチェンジの整備促進について、中日本高速道路株式会社や国に要請しました。

平成26年7月20日に小浜・敦賀間が開通することにより、舞鶴若狭自動車道が全線開通しました。

三方PAスマートインターチェンジ（仮称）については、平成27年1月から用地測量に着手し、敦賀南スマートインターチェンジについては、平成27年3月から工事に着手しました。

- 中部縦貫自動車道の北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通や大野・大野東間の早期事業化について国土交通省に強く要請を行いました。

永平寺大野道路の福井北・松岡間については、平成27年3月1日に開通しました。永平寺・上志比間については、平成28年度開通に向けて工事が順調に進捗しています。

大野油坂道路については、大野・大野東間の平成27年度の事業化が決定しました。大野東・和泉間では、用地取得が約8割完了し、平成26年8月から工事に着手しました。和泉・油坂間では、幅杭打設が完了し調査設計が進捗しています。

- 福井港丸岡インター連絡道路については、早期の用地取得に向けて、測量、予備設計などを行いました。
- 併せて、県内の主要道路の整備について、優先度をつけて計画的に促進しました。
- これからも、高規格幹線道路の早期整備と主要道路の効率的な整備により、道路交通ネットワークの確保を図っていきます。

### 2 災害に強いインフラの整備

- 橋梁、河川の排水機場、下水道施設、港湾施設などインフラの点検結果に基づく維持・補修による長寿命化対策を進めました。
- 足羽川ダムについては、国が地権者間と順次補償契約を進め、付替県道工事に着手しました。また、水源地域特別措置法に基づく水源地域の指定および水源地域整備計画が決定されました。これからも、ダムが一日も早く完成するよう引き続き国に求めていきます。
- 県内の河川において、洪水に備えた改修を進めるとともに、河道内の流下阻害の恐れのある土砂や雑木等の除去を行い、治水安全度の向上を図りました。

- ・ 土砂災害対策については、県下全域の土砂災害の危険性が高い箇所の再調査や花崗岩地域の地質調査を行うとともに、砂防堰堤等の整備、土砂災害避難訓練などを進めました。
- ・ 道路の防災・防雪・除雪・融雪対策を進め、道路の安全を確保しました。
- ・ これからも、自然災害に対する県民の安全安心の確保を図っていきます。

### 3 県民と共働して便利で美しいまちづくり

- ・ 県内9地区における地域の特性に応じた住教育の実施、橋りょう景観ガイドラインに基づく評価など、景観改善の環境づくりを進めました。
- ・ 若狭湾や白山連峰が眺望できる観光ルートを新たに福井県屋外広告物条例の「禁止地域」に指定し、屋外広告物の設置を抑制するなど、良好な景観づくりを進めました。
- ・ 老朽化や退色が進んだ公共施設の案内看板等の除却や、歩道整備区間における道路標識等の集約化を実施し、道路景観を改善しました。
- ・ 県都のシンボルである足羽川でのにぎわい創出のため、水辺での活動の促進と定着に取り組みました。
- ・ これからも、景観改善やにぎわい創出などを図る各種施策を実施することで、県民の生活に潤いと活力を与えるまちづくりの推進を図っていきます。

## II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・ 別紙「平成26年度 政策合意項目にかかる実施結果報告（土木部）」のとおり

平成26年度 政策合意項目にかかる実施結果報告(土木部)  
(平成27年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項 目		実 施 結 果	
<p>1 県土に活気の高速度交通時代</p> <p>◇ 高速交通ネットワークの完結促進</p> <p>○舞鶴若狭自動車道の全線開通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年夏までの全線開通を中日本高速道路株式会社に働きかけ、早期の供用を目指します。</li> </ul>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>舞鶴若狭自動車道の平成26年夏までの全線開通や、一日も早い全線開通時期の公表を国と中日本高速道路株式会社に要請しました。</p> <p>平成26年7月20日に小浜・敦賀間が開通することにより、舞鶴若狭自動車道が全線開通しました。</p> <p>【舞鶴若狭自動車道の概要】</p> <p>開通区間延長(小浜IC～敦賀JCT間) 約39km</p> <p>全線延長(吉川JCT～敦賀JCT間) 約162km</p>	
<p>○中部縦貫自動車道の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永平寺大野道路については、平成26年度開通予定の福井北・松岡間と平成28年度開通予定の永平寺・上志比間の工事促進を国に要請し、一日も早い全線開通を目指します。</li> <li>・大野油坂道路の大野・大野東間の平成27年度新規事業化と全線の早期整備をミッシングリンクの解消を要請している他県とも協力して国に強く働きかけます。</li> <li>・大野油坂道路の大野東・和泉間については、残る用地買収を進めるとともに、取得が完了した区間の早期整備を働きかけます。</li> <li>・大野油坂道路の和泉・油坂間については、平成27年度用地取得に向けて、幅杭打設など用地測量の促進を国に働きかけます。</li> </ul>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>中部縦貫自動車道の北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通や大野・大野東間の早期事業化について国土交通省に強く要請しました。</p> <p>永平寺大野道路の福井北・松岡間については、平成27年3月1日に開通しました。永平寺・上志比間については、平成28年度開通に向けて工事が順調に進捗しています。</p> <p>大野油坂道路については、大野・大野東間の平成27年度の事業化が決定しました。大野東・和泉間では、用地取得が約8割完了し、平成26年8月から工事に着手しました。和泉・油坂間では、幅杭打設が完了し調査設計が進捗しています。</p> <p>【中部縦貫自動車道の進捗状況】</p> <p>永平寺大野道路</p> <p>福井北・松岡間(2.2km)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27.3.1開通</li> </ul> <p>永平寺・上志比間(5.3km)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全地区で工事实施中</li> </ul> <p>大野油坂道路</p> <p>大野・大野東間(5.5km)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規事業化が決定</li> </ul> <p>大野東・和泉間(14km)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用地取得が進捗(約8割(面積ベース))</li> <li>・工事着手</li> </ul> <p>和泉・油坂間(15.5km)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査設計が進捗</li> </ul>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治																						
項目		実施結果																							
<p>○スマートインターチェンジの整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>舞鶴若狭自動車道敦賀南スマートインターチェンジと三方P Aスマートインターチェンジ（仮称）の整備促進を国と中日本高速道路株式会社に要請し、できるだけ早い着工を働きかけます。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>スマートインターチェンジの整備促進について国と中日本高速道路株式会社に要請しました。</p> <p>三方P Aスマートインターチェンジ（仮称）については、平成27年1月から用地測量に着手し、敦賀南スマートインターチェンジについては、平成27年3月から工事に着手しました。</p> <p>【供用予定年度】</p> <table> <tr> <td>敦賀南スマートインターチェンジ</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td>三方P Aスマートインターチェンジ（仮称）</td> <td>平成29年度</td> </tr> </table>		敦賀南スマートインターチェンジ	平成28年度	三方P Aスマートインターチェンジ（仮称）	平成29年度																		
敦賀南スマートインターチェンジ	平成28年度																								
三方P Aスマートインターチェンジ（仮称）	平成29年度																								
<p>○主要県内道路・県境道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高規格幹線道路と連結する基幹的な道路ネットワークを最優先に整備します。</li> <li>今年度事業化された福井港丸岡インター連絡道路については、早期の用地取得に向けて測量設計を進めます。</li> <li>県民の安全と利便性、効果、効率性とともに地元合意や市町の協力体制なども考慮し、優先度をつけて計画的に整備します。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>舞鶴若狭自動車道小浜IC～敦賀JCT間、中部縦貫自動車道福井北JCT・IC～松岡IC間のほか、これらと連結する国道27号金山バイパス・美浜東バイパスや国道416号吉野塚バイパスなど主要道路11箇所が供用されました。</p> <p>今年度事業化された福井港丸岡インター連絡道路については、測量、予備設計などを行いました。</p>																							
<p>県内主要道路の供用箇所数 24箇所 （11箇所の増） （平成25年度末13箇所）</p>		<p>主要道路の供用箇所数 24箇所（11箇所の増）</p> <table> <tr> <td>・国道27号〔金山バイパス〕</td> <td>6月27日</td> </tr> <tr> <td>・国道27号〔美浜東バイパス〕</td> <td>6月27日</td> </tr> <tr> <td>・（一）常神三方線〔神子トンネル〕</td> <td>7月6日</td> </tr> <tr> <td>・舞鶴若狭自動車道〔小浜IC～敦賀JCT間〕</td> <td>7月20日</td> </tr> <tr> <td>・（主）上中田烏線（若狭町上黒田～三田）</td> <td>7月20日</td> </tr> <tr> <td>・（主）福井今立線〔戸ロトンネル〕</td> <td>8月8日</td> </tr> <tr> <td>・国道158号〔砂山トンネル〕</td> <td>12月18日</td> </tr> <tr> <td>・中部縦貫自動車道〔福井北JCT・IC～松岡IC間〕</td> <td>27年3月1日</td> </tr> <tr> <td>・国道416号〔吉野塚バイパス〕</td> <td>27年3月1日</td> </tr> <tr> <td>・国道162号（若狭町食見～世久見）</td> <td>27年3月21日</td> </tr> <tr> <td>・国道161号〔愛発除雪拡幅 疋田工区〕</td> <td>27年3月25日</td> </tr> </table>		・国道27号〔金山バイパス〕	6月27日	・国道27号〔美浜東バイパス〕	6月27日	・（一）常神三方線〔神子トンネル〕	7月6日	・舞鶴若狭自動車道〔小浜IC～敦賀JCT間〕	7月20日	・（主）上中田烏線（若狭町上黒田～三田）	7月20日	・（主）福井今立線〔戸ロトンネル〕	8月8日	・国道158号〔砂山トンネル〕	12月18日	・中部縦貫自動車道〔福井北JCT・IC～松岡IC間〕	27年3月1日	・国道416号〔吉野塚バイパス〕	27年3月1日	・国道162号（若狭町食見～世久見）	27年3月21日	・国道161号〔愛発除雪拡幅 疋田工区〕	27年3月25日
・国道27号〔金山バイパス〕	6月27日																								
・国道27号〔美浜東バイパス〕	6月27日																								
・（一）常神三方線〔神子トンネル〕	7月6日																								
・舞鶴若狭自動車道〔小浜IC～敦賀JCT間〕	7月20日																								
・（主）上中田烏線（若狭町上黒田～三田）	7月20日																								
・（主）福井今立線〔戸ロトンネル〕	8月8日																								
・国道158号〔砂山トンネル〕	12月18日																								
・中部縦貫自動車道〔福井北JCT・IC～松岡IC間〕	27年3月1日																								
・国道416号〔吉野塚バイパス〕	27年3月1日																								
・国道162号（若狭町食見～世久見）	27年3月21日																								
・国道161号〔愛発除雪拡幅 疋田工区〕	27年3月25日																								

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
◇ 海と空の拠点を最大活用 ○敦賀港の利用促進【部局連携】 ・敦賀港の物流拠点としての機能を強化するため、鞠山南地区ふ頭用地の事業着手に向け調査を行います。合わせて、北陸新幹線や原子力災害制圧道路の工事の土砂を埋め立てに活用することを検討します。		[成果等] 目標を達成しました。 敦賀港の鞠山南地区ふ頭用地の事業着手に向け、土質や周辺環境に与える影響などの調査を行いました。加えて外部専門家の意見を聞きながら経済波及効果などについて検討を行いました。 その結果、バイオマス発電事業や内航フェリー・内航ROR船の大型化等による貨物量の増加、外航大型クルーズ船の寄港、北陸新幹線や原子力災害制圧道路のトンネル工事等の発生土砂活用によるコスト削減など、十分な事業効果が見込まれました。 これを受け、国へ事業着手に向けた要請を行うとともに、県による埋め立て事業の準備を進めます。	
○福井港の利用促進【部局連携】 ・中央航路への土砂の堆積を軽減するため、北防砂堤の事業着手に向けて港湾計画に位置づけます。		[成果等] 目標を達成しました。 北防砂堤の事業着手に向けて、本年度、施設の配置計画や環境影響調査、航路の安全調査を実施し、関係機関との協議を進め、同意を得ました。2月16日に福井港地方港湾審議会幹事会で審議を受け、中央航路における北防砂堤の港湾計画への位置づけを行いました。  <b>【北防波堤の延伸】</b> 延長 L=600m (移設延長 300m、新設延長 300m)	
◇ 次の50年の都市改造 ○えちぜん鉄道高架化の推進【部局連携】 ・平成30年の福井国体までの完成を目指し、仮設線路の工事を進めます。		[成果等] 引き続き実施します。 えちぜん鉄道の高架化事業については、平成30年の福井国体までの完成を目指しており、年度内に新幹線高架へ乗り入れるためのスロープ工事を完了しました。	
○新九頭竜橋の推進 ・詳細設計を早期に完了し、年内の工事発注を目指します。		[成果等] 目標を達成しました。 新九頭竜橋については、詳細設計を9月に完了し、右岸側堤防道路の付替工事に11月に着手しました。 12月には橋梁下部工事の入札公告を行い、3月に着手しました。	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○足羽川の利活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舟着場も活用しつつ、水辺に親しむイベント、川遊び、釣り体験などの活動の定着を図ります。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>市民団体や学校、企業などで構成する「まちなか足羽川会議」の参加団体と共動して、アユの稚魚放流やボートの川下りといった体験活動を実施し、多くの県民に参加いただきました。</p> <p>また、新たな取組みとして、昨年度整備した舟着場を活用した「カヌー体験教室」や歴史散策と連携した「毛矢の操舟体験」を実施しました。</p>	
<p>〔釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数 4,300人 (平成25年度 4,136人)〕</p>		<p>〔釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数 4,416人〕</p>	
<p>◇ 電車・バス・自転車に乗りやすい街</p> <p>○自転車道の整備【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の自転車道や河川堤防を活用し、自転車走行環境の整備を進めます。</li> <li>・自転車道のネットワーク化を進め、市町やカーセーブに関係する各地区サイクリング協会等の団体等と共動し、観光地を記載したわかりやすいルートマップを作成、周知するなど利用促進を図ります。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>既存の道路を活用して、丹南地域の福井ふるさと百景をめぐる自転車道のネットワーク化を図りました。</p> <p>越前市サイクリング協会や福井県サイクリング協会と共動し、ネットワーク化を進めた箇所ルートマップの作成やホームページでの公表、イベント等での配布を行いました。</p>	
<p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保 156km (20kmの増) (平成25年度末 136km)〕</p>		<p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保 158km (22kmの増)〕</p>	
<p>2 日本一の安全・安心</p> <p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応</p> <p>○インフラの長寿命化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁、河川の排水機場、砂防堰堤、下水道施設、港湾施設などインフラの定期的な点検結果に基づく維持・補修による長寿命化対策を進めます。</li> <li>・国、県、市町が一体となった道路メンテナンス会議を立ち上げ、点検技術の向上などを目的とした研修等を実施します。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>点検結果に基づき、橋梁36橋、河川排水機場8装置、下水道施設6装置、港湾25施設等の維持・補修を実施し、インフラの長寿命化を図りました。</p> <p>道路管理を計画的、効果的に行うため、5月に県道路メンテナンス会議を設置し、今年度点検が義務化された道路施設の点検計画を策定しました。</p> <p>また、12回の研修を実施し、国、県、市町等の職員の点検技術向上を図りました。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○原子力災害制圧道路等の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新設する道路について、敦賀半島の竹波立石縄間線、佐田竹波敦賀線、大島半島の赤礁崎公園線、内浦半島の音海中津海線の4路線のトンネル工事に着手します。</li> <li>・斜面对策や橋梁耐震補強など、既存の道路の防災機能を強化します。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>原子力災害制圧道路については、新設道路4路線でトンネル工事に着手しました。</p> <p>現道の防災対策について、今年度、対策が必要な25斜面すべてで対策に着手しました。</p> <p>また、橋梁については青戸の大橋の補修補強を実施しました。</p>	
<p>○道路インフラの防災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの点検結果により対策が必要とされる緊急輸送道路や原子力発電所に至る道路などの箇所において、法面防災対策工事を実施します。</li> <li>・異常気象時等に、緊急輸送道路や迂回路のない路線を重点的にパトロールし、防災対策の充実を図ります。</li> </ul> <p>〔道路法面对策工事に着手する斜面数 32斜面 (うち原子力災害制圧道路に関する斜面数 7斜面) (平成25年度 30斜面 うち原子力災害制圧道路に関する斜面数 13斜面)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>緊急輸送道路となっている国道305号などにおける47斜面 (うち原子力災害制圧道路に関する斜面は17斜面) において道路法面对策工事に着手しました。</p> <p>〔道路法面对策工事に着手した斜面数 47斜面 (うち 原子力災害制圧道路に関する斜面数 17斜面)〕</p>	
<p>○道路インフラの除雪対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月頃までに、パトロール、支障木の事前伐採、国、高速道路株式会社、原子力事業者等との情報共有など、これまでの大雪時の課題を再点検し、一層の除雪対策を進めます。</li> <li>・舞鶴若狭自動車道全線開通にあわせ、新たに国道27号から上中ICにアクセスする道路を最重点除雪路線とするなど嶺南地域における除雪体制の充実・強化を図ります。</li> <li>・緊急医療施設周辺道路、最重点除雪路線、緊急輸送道路などについて順次消雪施設を整備します。</li> <li>・雪崩対策が必要な箇所に防雪施設を重点整備します。</li> </ul> <p>〔消雪設備の整備延長 339km (3kmの増) (平成25年度末 336km)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>降雪期前にパトロールを実施し、倒木の恐れとなる支障木117本を10月末までに事前伐採し、冬季交通の安全を図りました。</p> <p>「嶺南雪対策に関する意見交換会」を関係者で3回開催し、越前市から敦賀市区間および嶺南地域の幹線道路の除雪対策の充実および関係機関の連携強化を図りました。</p> <p>原子力事業者と情報共有を行い、原子力発電所に通じる県道の交通の確保を図りました。</p> <p>(主) 佐田竹波敦賀線 (一) 音海中津海線 (一) 赤礁崎公園線他3路線 (56km)</p> <p>舞鶴若狭自動車道の全線開通にあわせて、国道27号から若狭上中ICにアクセスする県道(主)上中田鳥線(若狭町無悪から脇袋区間)を最重点除雪路線に指定し、消雪施設1.0kmを設置するなど除雪体制を強化しました。</p> <p>〔消雪設備の整備延長 343km (7kmの増)〕</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p><b>○治水対策の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年に浸水被害が発生した区間、想定氾濫区域内に家屋等が集中している区間、主要事業と関連する区間などを重点的に整備します。</li> <li>計画的に河川の浚渫や伐木を実施し、あわせて土砂や伐木の有効利用を図ります。</li> <li>大雨時の住民の迅速な避難につなげるため、雨量・河川水位情報に加え、河川監視カメラ映像や土砂災害危険度情報を提供します。</li> </ul> <p>整備効果が現れる河川延長 4,368m(1,000mの増) (平成25年度末 3,368m)</p> <p>河川の計画的浚渫の実施 3.8万m<sup>3</sup> (平成25年度 4.0万m<sup>3</sup>)</p> <p>河川監視カメラ設置箇所数 16箇所(5箇所の増) (平成25年度末 11箇所)</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>治水対策を促進するため、市街地を流れる底喰川、主要事業である中部縦貫自動車道と一体的に整備が必要な荒川など効果が早期に発現できるよう重点的に整備を進めました。</p> <p>また、河川の浚渫と伐木を実施し、あわせて浚渫土砂の有効活用、伐採木材の無償提供を実施しました。</p> <p>河川監視カメラについて、平成25年の台風18号で被害のあった嶺南地域の5河川に追加設置するとともに、国土交通省等の管理河川のカメラも含めて、10月から県ホームページで映像を公開しました。</p> <p>土砂災害の危険度の実況と予測を時系列で表示した曲線図を、10月から市町へ提供するとともに、平成27年3月から、一般県民向けに県ホームページで公開しました。</p> <p>整備効果が現れる河川延長 4,376m (1,008mの増)</p> <p>河川の計画的浚渫の実施 3.8万m<sup>3</sup></p> <p>河川監視カメラ設置箇所数 16箇所(5箇所の増)</p>	
<p><b>○ダム事業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>足羽川ダム事業については、付替道路等の工事促進や用地補償が円滑に進むよう国に強く要請し、一日も早い完成を目指します。</li> <li>水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画の作成や、池田町の地域振興策について国、池田町と協力して進めます。</li> <li>河内川ダムについては、本体コンクリート打設に着手し、吉野瀬川ダムについては、付替え道路工事を進め、事業の推進を図ります。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>国は、地権者間と順次補償契約を進めるとともに、6月14日には付替県道工事の着工式が行われ、工事に着手しました。</p> <p>10月17日に、国、県、池田町の三者による「足羽川ダム建設事業推進協議会」を開催し、ダム建設による影響や池田町の人口減少に係る諸課題について、定住促進対策を主とする地域振興策を確認しました。</p> <p>また、1月28日には、水源地域対策特別措置法に基づく水源地域の指定が、3月11日には、水源地域整備計画が決定されました。</p> <p>河内川ダムについては、本体コンクリート打設に着手しました。吉野瀬川ダムについては、付替え道路工事を進め、事業の推進を図っています。</p> <p>【ダム事業の進捗状況】</p> <p>足羽川ダム補償契約 平成26年度末 68世帯のうち59世帯契約締結</p> <p>河内川ダム ダム本体28%、付替道路8.5km(10.9km)78%</p> <p>吉野瀬川ダム 付替道路5.3km(10.3km)51%</p>	



役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p><b>○土砂災害対策の推進【部局連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害の危険性が高い箇所について再調査を行い、土砂災害警戒区域等の範囲を見直します。</li> <li>土砂災害警戒区域において砂防堰堤、急傾斜地崩壊対策施設などの整備を進め、土砂災害から守る人口の増加を図ります。</li> <li>県、市町、地域が連携して土砂災害避難訓練を実施し、防災意識の向上と警戒避難体制の強化を図ります。</li> <li>土砂災害警戒区域内の災害時要配慮者関連施設における土砂災害避難訓練の実施を進め、防災体制強化を図ります。</li> <li>小学校を対象に土砂災害や洪水についての出前授業を開催し、防災教育を進めます。</li> </ul>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県下全域の土砂災害の危険性が高い箇所の再調査を行うとともに、26年8月に広島で発生した大規模土砂災害を受け、花崗岩地域の地質調査を行いました。流出土砂量の増加が見込まれる箇所について、6月の梅雨時期前までを目途に、土砂災害警戒区域等の指定範囲の見直しを行います。</p> <p>土砂災害に対する安全安心を確保するため、砂防堰堤などの施設を整備し、保全人口が612人増加しました。</p> <p>県、市町、地域の連携による土砂災害を想定した避難訓練を新たに3市町で実施し、あわせて情報伝達の確認、防災講習を行い、住民の意識向上と警戒避難体制強化を図りました。</p> <p>土砂災害警戒区域内に立地する災害時要配慮者関連施設における土砂災害避難訓練が24施設において実施され、避難体制の強化が図られました。</p> <p>小学生を対象とした防災出前授業を23校で開催し、土砂災害と水害についての防災意識の向上を図りました。</p>	
<p>砂防堰堤などの整備により保全する人口 35,300人(589人増) (平成25年度末 34,711人)</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 17市町(3市町の増) (平成25年度末 14市町)</p> <p>災害時要配慮者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 152施(24施設の増) (平成25年度末 128施設)</p>		<p>砂防堰堤などの整備により保全する人口 35,323人(612人増)</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 17市町(3市町増)</p> <p>災害時要配慮者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 152施設(24施設増)</p>	
<p><b>○木造住宅の耐震化促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震診断や補強プランの作成、耐震改修工事に対する支援を行い、木造住宅の耐震化を進めます。</li> <li>既に耐震診断や補強プランの作成したものの耐震改修工事を実施されていない方に耐震改修を促すとともに、各地で行われるイベントにおいて相談会を実施するなど、市町と連携してきめ細かな普及啓発を行います。</li> </ul>		<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p> <p>耐震改修に係る費用負担の軽減を図るため、助成額の上限を昨年度に引き続き110万円とし、木造住宅の耐震化を進めました。</p> <p>耐震診断、補強プランの作成を行ったものの耐震改修工事を実施されていない方へのアンケート調査を行い、耐震改修への働きかけを行いました。</p> <p>また、県民の住宅の耐震化への理解を深めるため、市町とともに広報誌やイベント等での補助制度の紹介、パネル展示、耐震改修の現場見学会などを実施しました。</p>	
<p>耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 3,140戸(250戸の増) (平成25年度末 2,890戸)</p> <p>耐震改修が行われる木造住宅戸数 100戸 (平成25年度 53戸)</p>		<p>耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 3,013戸(123戸増)</p> <p>耐震化が図られる木造住宅数 39戸</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>○民間大規模建築物の耐震化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物の耐震改修の促進に関する法律の改正に伴い、耐震診断および所管行政庁への耐震診断結果の報告が義務付けられた不特定多数が利用する大規模な建築物の所有者に対して、市町とともに耐震診断費用に対する支援を行い、ホテル・旅館など民間大規模建築物の耐震化を促進します。</li> </ul> <p>〔耐震診断が義務付けられた民間大規模建築物の耐震診断実施数 7施設〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>民間大規模建築物の所有者に対して、市町と協調して耐震診断費に対する補助を実施し、対象建築物の診断を完了しました。</p> <p>〔耐震診断が義務付けられた民間大規模建築物の耐震診断実施数 7施設〕</p>	
<p>○空き家・空き地対策【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家となっている古民家や敷地が広いなどの福井の特徴を持つ住宅の掘り起し、所有者に中古住宅の品質や状態を明確にする「福井県住宅診断制度」の実施やふくい空き家情報バンクへの登録を促し、中古住宅の流通を促進します。</li> <li>県、市町、弁護士等で構成する「福井県空き家対策協議会」において、老朽化した危険な空き家の除却までの手続きや課題等をまとめるなど、市町の空き家対策を支援します。</li> <li>福井駅周辺などで増加している駐車場や空き地について、緑化など良好な都市景観の形成や土地利用の方策を検討します。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>市町や不動産関係団体と協力して、ふくい空き家情報バンクの登録件数の増加を進めるとともに、主要施設までの距離を明記するなど掲載内容の充実を図りました。</p> <p>中古住宅の品質や状態を明確にする「福井県住宅診断制度」の普及・促進を図り、ふくい空き家情報バンクへ住宅診断実施済物件として掲載しました。</p> <p>「福井県空き家対策協議会」において、倒壊等の危険性がある空き家の除去にかかる行政代執行の手続きなどについて検討し、空き家対策マニュアルに追加しました。</p> <p>10月から、不動産団体において空き家管理サービスなどの情報提供を行う空き家相談の総合窓口を開設し、県民からの空き家相談に対応しています。</p> <p>また、5月に福井駅周辺空き地対策検討会を設置し、空き地対策の検討を開始しました。</p> <p>次年度以降も引き続き緑化など空き地の有効活用に向けた検討を行います。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>3 豊かな環境、もっと豊かに ◇ 見える見せる温暖化対策 ○建設技術研究センターによる環境に調和した研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁のコンクリート床版の劣化状況を簡易かつ安価に診断する技術の研究を行い、橋梁の長寿命化を促進します。</li> <li>農業ハウス倒壊の未然防止や効率的な除雪体制など、多方面に役立つ福井独自の降雪予測システムの開発を進めます。</li> <li>舗装のひび割れに接着剤を注入することによる予防保全的修繕を行う工法の開発を行い、アスファルト廃材の軽減等を進めます。</li> </ul> <p>舗装ひび割れを接着剤注入により修繕する工法開発などの新規研究 4件</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>橋梁のコンクリート床版の劣化状況を小型計測器で簡易かつ安価に診断する技術を確認するため、4橋で詳細な実証試験を実施し、劣化状況を診断する方法を開発しました。引き続き、診断精度の向上に努めるとともに、安価で補修できる工法を確立していきます。</p> <p>地形や過去の降雪量・気温・風などの気象データを基にした降雪予測式をメッシュごとに補正する降雪予測方法を開発しました。引き続き、降雪予測と実際の降雪量を比較しながら予測精度を高め、福井独自の降雪予測システムの開発を進めます。</p> <p>舗装のひび割れに注入する接着剤の材料配合試験を行い、ひび割れ幅の状況に応じた配合を決定しました。引き続き、施工機械等の開発を進め、予防保全的修繕を行う工法の確立を目指します。</p> <p>舗装ひび割れを接着剤注入により修繕する工法開発などの新規研究 4件</p>	
<p>○再生可能エネルギー設備の導入 【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浄土寺川ダムや梶谷ダムなどにおいて、ダムからの放流水を活用した管理用発電設備の設置を進めます。</li> <li>砂防堰堤を活用した小水力発電について、施設の構造や発電量に関する情報などを広く周知し、地域への導入を支援します。</li> </ul>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>浄土寺川ダムおよび梶谷ダムにおいて、ダムからの放流水を活用した発電設備の設置工事を進めました。平成27年度中に工事を完了し、28年度からの発電開始を目指します。</p> <p>砂防堰堤を活用した小水力発電については、導入を検討している3地区に対し、堰堤の構造等に関する情報を提供しました。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>◇ 景観を県民資産に ○景観調和の美しい社会資本の整備</p> <p style="text-align: center;"><b>【部局連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井国体の開催や北陸新幹線の県内開業に向け、観光地やまち並みなどの良好な景観づくりを推進するため、屋外広告物の調査を行い、福井県屋外広告物条例の設置基準の見直しを進めます。</li> <li>・舞鶴若狭自動車道と中部縦貫自動車道の供用に伴い、若狭湾や白山連峰が眺望できる観光ルートを新たに条例の「禁止地域」に指定し、屋外広告物の設置を抑制します。</li> <li>・道路周辺の景観を改善するため、交差点改良や道路標識柱等の集約化を行うとともに、標識や看板の撤去を進めます。</li> <li>・塗装の塗り替えが予定されている橋りょうについて、「福井県橋りょう景観ガイドライン」に基づき、適切な景観評価を行います。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新たに禁止地域に指定する区間 2区間 (平成25年度 4区間)</p> <p>交差点における道路標識柱等の集約化 1箇所</p> <p>背面利用や併設などによる道路標識等の減少 60箇所(11箇所の増) (平成25年度末 49箇所)</p> <p style="text-align: center;"><b>チャレンジ目標 68箇所</b></p> <p>ガイドラインに基づく景観評価に着手する塗り替え橋りょう数 8橋りょう(1橋りょうの増) (平成25年度末 7橋りょう)</p> </div>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井県屋外広告物条例の設置基準の見直しに向け、県内の主な観光地周辺や幹線道路、北陸新幹線沿線の広告物の設置状況等の調査を行い、屋外広告物審議会に諮りながら関係団体との意見交換やアンケート調査の意見を踏まえた新たな設置基準(案)を作成しました。</p> <p>引き続き、観光地やまち並みなどの良好な景観づくりを推進するため、福井県屋外広告物条例の設置基準の改正を進めます。</p> <p>若狭湾や白山連峰が眺望できる観光ルートを屋外広告物審議会に諮り、新たに福井県屋外広告物条例の「禁止地域」に指定しました。</p> <p>公共施設への案内看板等を除却するなどし、道路景観を改善するため、関係部局と協議し、計画的に除去を進めました。</p> <p>塗装の塗り替えを行う1橋りょうについて「福井県橋りょう景観ガイドライン」に基づき、景観評価を行いました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新たに禁止地域に指定する区間 2区間</p> <p>交差点における道路標識柱等の集約化 1箇所</p> <p>背面利用や併設などによる道路標識等の減少 71箇所(22箇所の増)</p> <p>ガイドラインに基づく景観評価に着手する塗り替え橋りょう数 8橋りょう(1橋りょうの増)</p> </div>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p><b>○建設発生土の有効利用【部局連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線等大型工事により生じる建設発生土の需給調整を行い、さらに、トンネル掘削土や浚渫砂を骨材・養浜として再利用するなど、建設発生土の有効利用を図り、土砂採取による山の切り崩しを抑制し景観を保全します。</li> </ul>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>昨年度に引き続き、鉄道・運輸機構、国土交通省、県および市町をメンバーとした「建設発生土利用促進委員会」を今年度3回開催し、北陸新幹線や中部縦貫自動車道など大型工事から生じる建設発生土の需給調整を行いました。</p> <p>新北陸トンネル工事の掘削土や福井港の浚渫砂を骨材として再利用するとともに、福井港浚渫砂は赤崎海岸の養浜にも活用しました。</p> <p>引き続き、北陸新幹線等大型工事から生じる建設発生土の需給調整を行い、建設発生土の有効利用を図ります。</p>	
<p><b>○子どもにも大人にも新しい「住教育」を推進【部局連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井らしい「住まい」「まち並み」「住まい方」を学び、次世代へ継承する「住教育」をモデル地区において実践します。</li> <li>歴史的なまち並みや福井の歴史や文化を反映した良質な古民家が残るモデル地区において、住教育活動を通じ、地域住民の景観に対する意識の醸成を図り、外観の改修や地区内での景観づくりを推進します。</li> </ul>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内9地区のモデル地区において、関係団体と連携して、街なか散策や小学生を対象とした宮大工による体験講座など、地域住民とともに住教育を実施しました。</p> <p>また、歴史的なまち並みがあるモデル地区において、身近にできる景観づくりを行い、住民の景観に対する意識の醸成を図りました。</p>	
<p>住教育実践モデル地区数 17地区（5地区の増） （平成25年度末12地区）</p>		<p>住教育実践モデル地区数 17地区（5地区の増）</p> <p>あわら市：新富地区 越前町：江波地区 若狭町：天徳寺地区</p> <p>池田町：稲荷地区 美浜町：佐柿地区</p>	
<p><b>○三里浜緑地の利活用の推進【部局連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近に緑の自然景観を楽しめるよう、モデル地区において緑地内の環境改善を行い、利用しやすい環境づくりを進めます。</li> <li>健康づくりのためのウォーキングや子供たちの自然学習の場として自然観察会などのイベントを開催し、自然とふれあえる活動を展開します。</li> <li>地域の観光振興につながるよう、緑地内に三里浜砂丘地を眺望できる場所を整備し、「道の駅」などと連携した利活用を進めます。</li> <li>できるだけ多くの地域住民に親しんで利用してもらえるよう、三里浜緩衝緑地の愛称を募集するなど、PR活動を行います。</li> </ul>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「道の駅」周辺のモデル地区において、新たな公園出入口の整備や園路周辺の下草刈り実施するなど、環境改善を行い、利用しやすい環境づくりを進めました。</p> <p>地元まちづくり協議会や「道の駅みくに」とも連携し、健康づくりのためのウォーキングや子供たちの自然学習などのイベントを開催しました。</p> <p>また、緑地内に三里浜砂丘地を眺望できる展望所を整備し、「道の駅」の花らっきょ祭と連携して三里浜特産物を紹介するイベントを実施するなど、緑地の利活用を進めました。</p> <p>三里浜緩衝緑地の愛称募集を行い、446件の応募の中から「三里浜砂丘の森」に愛称を決定しました。</p>	

役職	土木部長	氏名	幸道 隆治
項目		実施結果	
<p>4 観光とブランドを産業の柱に</p> <p>◇ 観光を福井のリーディング産業へ</p> <p>○道の駅の整備・活用【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>越前町、若狭町および永平寺町の3箇所において、市町が整備する観光や農産物販売の拠点となる地域振興施設と合わせて整備を進めます。</li> <li>既設の道の駅について、より快適に利用してもらえるよう、老朽化した設備の補修・更新を行います。</li> <li>県内の「道の駅」をより魅力的な観光や地域振興の拠点とするため、市町・駅長等を対象とした情報交換の場を設け、利用客の拡大を図ります。</li> </ul> <p>〔道の駅整備完了箇所数 13箇所（2箇所の増）（平成25年度末 11箇所）〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>越前町、若狭町および永平寺町の3箇所において整備を進め、その内、越前町、若狭町については今年度で整備完了、永平寺町については、平成27年度中も引き続き整備を進めます。</p> <p>「道の駅」をより魅力的な観光や地域振興の拠点とするため、道の駅利用者にアンケート調査（1,555件）を行うとともに、道の駅駅長同士の情報交換を行う駅長会議を2回実施しました。</p> <p>〔道の駅整備完了箇所数 14箇所（3箇所の増）〕</p> <p>【整備箇所】</p> <p>越前町 道の駅「越前」 H26.11月整備完了  若狭町 道の駅「三方五湖」 H27.3月整備完了  福井市 道の駅「一乗谷あさくら水の駅」  (H27.3月完成・市整備)  永平寺町 道の駅「永平寺温泉（仮称）」整備中（H27完成予定）</p>	
<p>5 行財政構造改革による財源の確保</p> <p>◇ 150億円の「政策推進枠予算」を確保</p> <p>○県有地の売却・利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用促進チームが、専門業者の販売ノウハウやインターネット公有財産売却システムを活用し、県有地の売却や利活用を進めます。</li> </ul> <p>〔売却・利活用する土地の区画数 4区画（平成25年度 7区画）〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>関係団体、近隣企業、宅建業者へのPRや訪問活動、一般公募を行い、4区画を売却しました。</p> <p>これからも訪問活動等を継続していくとともに、宅地建物取引業団体等の情報網やノウハウを活用して、土地の売却や利活用を進めます。</p> <p>〔売却・利活用した土地の区画数 4区画〕</p> <p>〔売却〕 4区画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井市成和 個人に1区画売却</li> <li>花乃杜ハイツ 個人に3区画売却</li> <li>26年度歳入：54,325千円</li> </ul>	